

○ 日常生活や社会生活とのかかわりを重視する理由は何か。

日常生活や社会とのかかわりを重視することは、今回の改訂で新たに加わったことである。学習指導要領には、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の1に次のように示されている。

(3) 第2の各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会とのかかわりを重視すること。

各学校において目標や内容を定めるとは、どのような資質や能力及び態度を育成するのか、どのような学習課題を扱うのかなどを明らかにすることである。その際、日常生活や社会とのかかわりを重視することが大切である。

日常生活や社会とのかかわりを重視する意味は次のとおりである。

- 1 総合的な学習の時間では、実社会や実生活において生きて働く資質や能力及び態度の育成が期待されていることである。実際の生活にある問題を取り上げることで、児童は日常生活や社会において、課題を解決しようと真剣に取り組み、自らの能力を存分に発揮する。その中で育成された資質や能力及び態度は、実社会や実生活で生きて働くものとして育成される。
- 2 総合的な学習の時間では、児童が主体的に取り組む学習が求められていることである。日常生活や社会にかかわる課題は、自分とのつながりが明らかであり児童の関心も高まりやすい。また、直接体験なども行いやすく、身体全体を使って、本気になって取り組む児童の姿が生み出される。
- 3 総合的な学習の時間では、児童にとっての学ぶ意義や目的を明確にすることが重視されていることである。自ら設定した課題を解決する過程では、地域の様々な人とかかわりも考えられる。そうした学習活動では、「自分の力で解決することができた」「自分が学習したことが地域の役に立った」などの、課題の解決に取り組んだことへの自信や自尊感情がはぐくまれ、日常生活や社会への参画意識も醸成される。